

2017年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2018年 4月 27日

和光大学地域連携研究センター
センター長 小林 猛 久 殿

代表者氏名 長尾 洋子

研究プロジェクトの名称			
地域社会における文化資源と若者・市民の創発力の融合にむけた実践的研究 (1年目)			
研究目的			
本プロジェクトは、和光大学が立地する大都市郊外において、学生の視点から文化資源の現状をとらえ、その知見をもとに地元住民やこの地域への訪問者、学生自身が、ともに文化を愉しみ培っていく活動をプロデュースする。その過程において、地域文化資源に関する情報を可視化し共有・交換できるものにし(=デザイン)、また地元の文化施設、文化振興機関と連携を図る。こうした活動を通じて、若者・市民の創発力、すなわち創造し触発し合う力が高められる機会を作ることが本プロジェクトの目的である。			
プロジェクト所属メンバー (氏名の右の欄に、本学専任教員=教、共同研究員=共と記入してください。)			
長尾 洋子	教	畑中 朋子	教

研究活動の経過 (800字以内) (打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。)

【カルスポ探検】

◇2017年4～7月 プロジェクトメンバーおよび総合文化学科専門科目「フィールドワークの実践」受講生を2017年度カルチャー・スポット探検隊(カルスポ探検隊)として組織化。授業の進行に合わせ、学生企画ツアー策定、役割分担、文献調査等を実施。

◇8月～10月 学生企画ツアーのための現地調査(地域史についての聞き取り調査を含む)

◇10月～11月 ツアー事前説明会および実施。「フィールドワークの実践」受講生以外の学生も参加。

- ・10月28日 「原宿・渋谷のトレンドと歴史が混在する魅力」ツアー
- ・11月12日 「小田急線開通から現在までの向ヶ丘遊園周辺の変化をたどる」ツアー
- ・11月18日 「横須賀に幕末以降の歴史の痕跡をさがす」ツアー

◇12月～2018年3月 カルスポ探検隊メンバーによる報告、とりまとめ、報告書兼ガイドブック『カルスポ探検へようこそ』編集

※9月から1月にかけての進行については別紙「FWの実践2 授業カレンダー」参照。

【アンケート調査】

4月～7月 本学学生に対して実施→集計

2018年1月 専修大学学生に対して実施→集計

【専門知識の提供】

7月11日 「マチサガへのこだわりをカタチにする」(株式会社キープ・ウィルダイニング代表取締役 保志真人氏)

10月24日 「文化の場所を創る」(旧白洲邸 武相荘館長 牧山圭男氏)

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

1. 学生の視点からの文化資源の現状把握

①学生企画ツアーの企画運営

活動開始にあたって、カルスポ探検隊員(16名)の生活圏における関心を把握するために、各自90分のミニフィールドワークを行って発表する「90 MINUTES」というワークショップを実施。ここで示された関心、視点、文化資源などをブレインストーミング等の手法を用いて、ツアーの目的(コンセプト)を3つに絞り、ふさわしいフィールドや訪問地を選定した。このような方法によって、地域文化資源といってもすでに観光地として全国的に有名な場所を挙げる傾向があること、「昔と今の違い」を知ること・案内することに高い関心を寄せていることが分かった。そこで、実地踏査によるつぶさな観察を行い、地域史や文学作品、地元志向の散策ガイドなどに学び、各エリアの特色を探った。向ヶ丘遊園駅周辺の調査では、向ヶ丘遊園にゆかりの深い地元の方々にインタビューし、幼少時に遊んだ体験や戦時中の様子など、貴重な情報を得ることができた。(添付資料『カルスポ探検へようこそ』を参照。)

②専門知識の提供と市民との交流

企業活動や文化事業として実社会で文化資源の創出、発掘に携わる二氏を招聘し、特別講義という形でカルスポ探検隊に専門知識を提供していただいた。その結果、行政区にこだわらず、活動やエネルギーの交流拠点(ハブ)を把握したうえで、柔軟に地元=ローカルの範囲を設定し、文化資源を発掘・創出することが有効と気づかされた。また、自然や暮らしそのものがエンターテインメント性を持ちえるようになった今日、どのように地域の可能性を掘り起こし、育てていくかの実例を学んだ。特別講義とその後の意見交換は、隊員(学生・若者)が講師(市民でもある)と交流する貴重な機会でもあった。

③『カルスポ探検へようこそ』の作成

学生を主体とするカルスポ探検隊の意向および活動運営の力量などを考慮し、一般市民のツアー参加は見合わせる事となった。そこで、カルスポおよびルート紹介、ツアー報告をガイドブック風にまとめ、配布することによって若者や市民が自ら散策や観光を愉しめるよう、方向転換した。芸術学科学生も参加し、対象エリアの特徴を視覚的に伝える素材を採集。畑中のアート・ディレクションによりデザイン化した。今後、配布先の反応をみていきたい。(協力機関、個人に差し上げたところ、配布協力のお申し出、シリーズ化の要望をいただいている。)

③「大学生のカルチャー・スポット利用についてのアンケート」

有形無形の文化資源を「場所」に引き付けた「カルチャー・スポット」の概念を用いて、大学周辺の文化資源がどの程度認知されているかを和光大学生および専修大学学生にアンケート調査した。集計・分析が途中となっているので、できるだけスピーディに作業を進めたい。アンケート結果は前年の研究結果と突き合わせ、文化資源の認知と利用に関する現状をより詳しく把握することが期待される。また、『カルスポ探検へようこそ』に掲載した5つのツアーの意義や、若者・市民の創発力発揮にかかる有効性を検討するさいに参照したい。

2. 全体的な成果、今後に向けて

毎年変わる隊員の関心や個性、力量を把握する作業は、若者の創発性を見出し、向上させる営みと同義である。正課と関連づけて調査研究を推進した手法は有効ではあったが、社会的な活動へと広げ、方向づけていくためには相当の労力と工夫を要する。市民との接触が限られてしまったのは大きな反省点である。本プロジェクトの体験をふまえ、今後もカルチャー・スポットの概念を用いて文化の場の発掘・創出活動を行っていきたい。

成果の発表文献(標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等)

(発行年は厳密に2017年4月～2018年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください)

『カルスポ探検へようこそ—和光大学生とめぐって愉しむ文化・場所・歴史』(和光大学長尾研究室、2018年3月)

※ 提出期限=2018年4月27日(金) 提出先=企画室企画係(奥名・岡本)

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけこのデータに入力いただき、e-mailで送信してください。

※ kikaku@wako.ac.jp(企画係)